

横浜国立大学国際社会科学府
博士課程前期 経済学専攻
学位論文に係る評価基準

1. 学位論文に係る評価基準

- ・ 研究対象分野及び論文テーマに関する基本的理解
- ・ 自己の分析または解釈・見解の論理性・独創性
- ・ 論文の構成、表現技術

2. 審査委員の体制

- ・ 指導教員等3名

3. 審査の方法

- ・ 論文審査及び最終試験により評価判定を行う。
- ・ 最終試験は、学位取得要件の単位数を修得し、かつ修士論文を提出した者について行う。
- ・ 最終試験は、口頭試問により行う。

※博士論文研究基礎力審査コース

- ・ 博士論文研究基礎力審査コースを履修する者は博士論文研究計画又はタームペーパーの合格に加え、博士論文研究基礎力審査（QE）に合格することが必要。
- ・ 博士論文研究計画は、博士課程後期進学に先立ち、関連先行研究の蓄積を展望しつつ、学生がこれから執筆する博士論文の具体的な研究計画、タームペーパーは、特定のテーマを取り上げ、博士課程前期で学んだ基礎的な専門知識を用いて分析した研究成果
- ・ 博士論文研究基礎力審査（QE）では、①経済学のコアとなる分野の基礎的な専門知識の理解を問う専門科目筆記試験と、各受験者の専門的研究の展開に関する理解・認識を問う口頭試問との2段階で構成。

横浜国立大学国際社会科学府
博士課程前期 経営学専攻
学位論文に係る評価基準

1. 学位論文に係る評価基準

- ・ 研究対象分野及び論文テーマに関する基本的理解
- ・ 自己の分析または解釈・見解の論理性・独創性
- ・ 論文の構成、表現技術

※社会人専修（MBA）コース

- ・ 特定課題論文における課題設定が適切であり、問題意識が明確であること
- ・ 特定課題論文中に示された執筆者の分析または解釈・見解が論理的であり、独創性が認められること
- ・ 特定課題論文での研究内容とその意義を十分理解しており、説得的に説明できること
- ・ 特定課題論文の構成、表現等が妥当であること

2. 審査委員の体制

- ・ 指導教員等3名

3. 審査の方法

- ・ 論文審査及び最終試験により評価判定を行う。
- ・ 最終試験は、口頭試問により行う。

※博士論文研究基礎力考査コース

- ・ 博士論文研究基礎力考査コースを履修する者は博士論文研究計画又はタームペーパーの合格に加え、博士論文研究基礎力審査（QE）に合格することが必要。
- ・ 博士論文研究計画は、博士課程後期進学に先立ち、関連先行研究の蓄積を展望しつつ、学生がこれから執筆する博士論文の具体的な研究計画、タームペーパーは、特定のテーマを取り上げ、博士課程前期で学んだ基礎的な専門知識を用いて分析した研究成果
- ・ 博士論文研究基礎力審査（QE）では、①経営学のコアとなる分野の基礎的な専門知識の理解を問う専門科目筆記試験と、各受験者の専門的研究の展開に関する理解・認識を問う口頭試問との2段階で構成。

※社会人専修（MBA）コース

- ・ 必要な研究指導を受けた上、特定課題研究（特定課題論文）の審査及び試験に合格

横浜国立大学国際社会科学府
博士課程前期 国際経済法学専攻
学位論文に係る評価基準

1. 学位論文に係る評価基準

- ・ 論文の対象分野に関する基本的理解と資料の妥当性
- ・ 論文中に示された分析または解釈の論理性と妥当性
- ・ 論文の構成、表現技術

2. 審査委員の体制

- ・ 指導教員等3名

3. 審査の方法

- ・ 論文審査及び最終試験により評価判定を行う。
- ・ 最終試験は、学位取得要件の単位数を修得し、かつ修士論文を提出した者について行う。
- ・ 最終試験は、口頭試問により行う。

※博士論文研究基礎力審査コース

- ・ 博士論文研究基礎力審査コースを履修する者は博士論文研究計画又はタームペーパーの合格に加え、博士論文研究基礎力審査（QE）に合格することが必要。
- ・ 博士論文研究計画は、博士課程後期進学に先立ち、関連先行研究の蓄積を展望しつつ、学生がこれから執筆する博士論文の具体的な研究計画、タームペーパーは、特定のテーマを取り上げ、博士課程前期で学んだ基礎的な専門知識を用いて分析した研究成果
- ・ 博士論文研究基礎力審査（QE）では、法学・政治学のコアとなる分野の基礎的な専門知識の理解を問う専門科目筆記試験と、各受験者の専門的研究の展開に関する理解・認識を問う口頭試問との2段階で構成。

横浜国立大学国際社会科学府
博士課程後期
学位論文に係る評価基準

1. 学位論文に係る評価基準

以下のいずれかの水準を充たすこと

- ・ 当該論文の内容の一部が、国内外で評価が高い審査制の学術専門誌に論文として掲載されている、あるいは、投稿され受理が決定していること
- ・ 当該論文の内容の一部が、高い評価を得ており、その内容を含む論文が、国内外で評価が高い審査制学術専門誌に受理される可能性が高いと認められること、もしくは、高度な専門的価値を有する学術研究書として出版可能であること
- ・ 当該論文が上記に準ずる内容であり、当該研究分野における重要な貢献が認められること

2. 審査委員の体制

- ・ 主査1名を含む教員3名で構成する指導委員会及び
他専攻や学外を含め広い範囲から選考された審査委員2名、計5名

3. 審査の方法

- ・ 博士号取得のためには、博士請求論文審査に合格しなければならない。
- ・ 博士請求論文審査を受けるためには、事前に予備審査に合格する必要がある。
- ・ 博士請求論文審査は、論文審査と口頭試問によって行う。